

〈学習会〉先人たちの遺骨を 故郷の地 平取へⅢ

主催 平取「アイヌ遺骨」を考える会
共同代表 木村 二三夫(☎・FAX01457-5-5558)
井澤 敏郎 (☎090-6693-1184)

協力 平取町教育委員会・コタンの会
北大開示文書研究会

日時 2018年 3月 17日(土曜) 午後5時～7時30分

会場 平取町二風谷生活館
(北海道沙流郡平取町二風谷 78-12)

入場 無料 【申し込み不要 直接会場にお越し下さい】

講師

石^{ソク} 純^{スニ}姫 苫小牧駒澤大学教授

「朝鮮人とアイヌ民族の歴史的つながりとアイヌ遺骨」

殿平 善彦 北大開示文書研究会共同代表

「朝鮮人の遺骨をふる里の土へ帰した運動とアイヌ遺骨」

今回の課題：アイヌ遺骨が掘り盗られた歴史と並行した北海道のもう一つの歴史。明治期以降の日本の近代化の中で、朝鮮半島や中国大陸から大勢の方々が北海道へ来ました。強制連行もありましたが、北海道各地で過酷な労働で亡くなった人達の歴史と埋葬や放置された遺骨のふる里への返還を実現した人たちが居ます。また、作業場から逃亡した方々を助けたアイヌ民族の歴史も学びます。

平取「アイヌ遺骨を考える会」の趣旨

北海道大学など全国12大学と、10を超える博物館施設に、大量のアイヌ遺骨と副葬品(故人とともに収められていた品々)が保管されています。明治～昭和初期研究者たちが各地のアイヌ墓地を掘って集めるなどしたものです。

北海道大学には、平取町内から17人分の遺骨が持ち出されています。

なぜこんな事件が起きたのか。どうすれば元通りにできるのかを学びます。